

2019
5



没後130年 河鍋暁斎展関連

「河鍋暁斎に挑戦！」

■開催日時：2019年5月4日（土）

13：30～15：00

■参加者：17名

■対象：小学生～高校生

■参加費：500円

■場所：アトリエ2、企画展示室

■材料：半紙、墨、胡粉、顔彩など

■概要

日本画家の守家美保子先生を講師に迎え、河鍋暁斎の観察力、洞察力、描写力に挑みます。暁斎の作品から描線を写し取り、自由に色を塗って世界にひとつだけのオリジナル作品を制作しました。

■完成した作品



■講師

守家 美保子

日本画家

徳島県生まれ。1985年 京都市立芸術大学（日本画専攻）卒業。1996年、第2回 松伯美術館花鳥画展（松伯美術館）優秀賞受賞。茨木美術家協会会員、京都日本画家協会会員、創画会会友。



■解説

まずは守家先生から、胡粉(ごふん)や顔彩の溶き方、筆の扱い方などを習います。胡粉は守家先生が膠(にかわ)を加えてイベント前に練ってくださったもの。ゆでる前の白玉のような胡粉の玉を、押しつぶすようにして絵皿の上で溶いていきます。初めての本格的な日本画の道具の前に、みんな背筋を伸ばして緊張の面持ちです。



■制作

今回は暁斎の描いた動物の絵(のコピー)を用意。好きなものを選んでもらい、その上から半紙をのせて線を描き写します。それを胡粉や顔彩で自由に着色し、オリジナルの暁斎作品に仕上げていきます。大胆、繊細、カラフル、モノクロ等、元は同じ絵でも作品ごとに異なる個性が飛び出します。



■鑑賞

制作終了後、実際に暁斎の作品を、展覧会を担当した村田学芸員と一緒に鑑賞しました。ポスターにも登場した《美女の袖を引く骸骨》の鑑賞では、ユニークな視点から作品を解釈した意見もあれば、こちらが嘆息するほど芯を捉えた鋭い意見も出ました。みんな作品を細部までしっかり観察してくれています！



■ふり返って

筆はあまり使ったことがない参加者が多かったのですが、持ち方や描き方をすぐに習得しているのを見て、とてもびっくりしました！それぞれのユニークな色づけもしてくれて、カラフルな画面が出来上がりました。

(村田学芸員)

■参加者の感想

- ・猫の毛並を描くのが難しかった。
- ・なぞるのは難しかったが、西洋画とは違った迫力があってよかった。

■保護者の感想

- ・日本画に挑戦する機会がないので面白かったです。
- ・子どもが興味を持って取り組む姿勢が見えました。